



令和2年度 第2号

サタデースクール通信

2021年3月19日 発行
教育委員会 生涯学習推進課

サッポロサタデースクール事業は、子どもたちにとって土曜日を始めたとした休日を充実したものとし、地域と学校との連携・協働の仕組みを整え、地域全体で子どもを育てる環境を醸成することを目指しています。



令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により、活動の縮小や見合わせが多くなりました。そのような中でも、感染症対策に配慮しながら活動していただいた運営協議会の皆さんに、この場を借りてお礼申し上げます。

今年度のプログラムの一部をご紹介します。

■「ランニング教室」（札苗緑小学校 地域連携協議会）

「札苗緑小お父さんの会」との共催で、毎年恒例になっている企画です。

今年は運動会に代わる「スポーツの集い」を1週間後に控え、約40人の子どもたちが参加しました。遊びの要素を取り入れた「しっぽとりゲーム」や、はしご状の道具を使う「ラダートレーニング」を通して、足を素早く動かす走り方のポイントを学びました。

お父さんチームとのリレー対決も盛り上がりしました。





■「自転車教室」(もみじの丘小学校 地域連携協議会)

厚別区交通安全運動推進委員会、もみじ台老人クラブの協力のもと、厚別警察署から講師をお招きし、自転車の安全な乗り方や交通ルールを学びました。

標語作りや〇×クイズなどの企画もあり、地域の方と一緒に楽しみながら、交通安全への意識を高めました。



■「ドッジボール大会」(手稲中央小学校 サタデースクール運営協議会)

子どもたちの身体づくりや友好関係づくりを目的にした「手稲中央おやじの会」とのコラボ企画です。低学年の部と高学年の部に分け、それぞれ定員を設けて参加者募集を行ったほか、事前検温報告や手指消毒など、感染予防対策も万全にして開催されました。

高学年チームと大人チームの対決もあり、交流が深まりました。





❀❀❀ 感染症対策 ❀❀❀

1年以上に及ぶ感染症の流行の中で、基本的な感染防止対策のほか、集団感染の起こりやすい場面などの情報が収集され、「新しい生活様式」の実践が求められています。サッポロサタデースクール事業においても、下記の項目に配慮して、プログラムの企画・実施をお願いします。

- ①身体的距離の確保
- ②マスクの着用、咳エチケットの徹底
- ③手洗いまたは手指の消毒
- ④参加者及び従事者名簿の作成
- ⑤参加当日の体温測定と呼びかけ
- ⑥（室内）こまめな換気と適度な保湿（加湿）
- ⑦使用物品等の消毒（使用前後）

❀消毒について❀

ドラッグストアやホームセンターで購入できる一般的な住宅・家具用洗剤や台所用洗剤の中にも、新型コロナウイルスの消毒に有効性が確認されているものがあります。

独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）のホームページで、製品リストを公開しています（随時更新）。消毒用品の購入時に参考にしてみてくださいはいかがでしょうか。

アドレス <https://www.nite.go.jp/information/osirasedetergentlist.html>



❀マスクやフェイスシールドについて❀

マスクの種類やマスク以外の対策用品（フェイスシールドなど）で飛沫に対する効果が異なることが分かってきました。株式会社全音楽譜出版社が、新型コロナウイルスに関する情報《マスク編》「データから見るマスクの効果」を公開していますので、抜粋してご紹介します。引用元 https://www.zen-on.co.jp/corporate_news/

プログラムによっては、参加者に口元が見えるようにしたい場合もあると思いますが、マスクに比べてフェイスシールドやマウスシールドの効果は弱いことがわかります。十分な距離を取るなど、他の対策も併用するようにしましょう。



■ マスクやフェイスシールドの効果（スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果）

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド
		不織布 	布マスク 	ウレタン 		
	吐き出し飛沫量					
	100%	20%	18-34%	50%※2	80%	90%※2
	吸い込み飛沫量					
	100%	30%	55-65※2	60-70%※2	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	

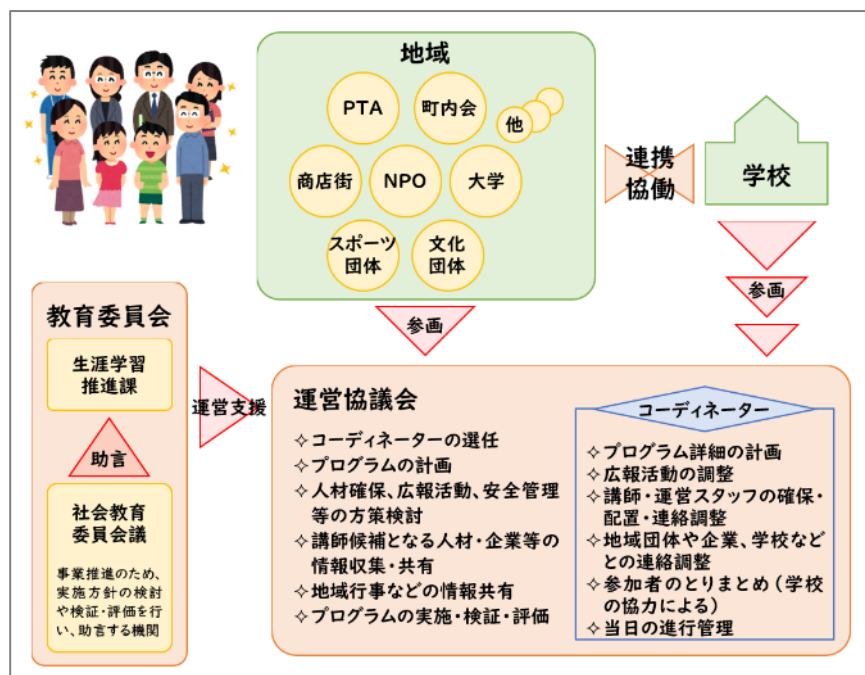
※2 豊橋技術科学大学による実験値



サッポロサタデースクール運営のしくみ

サッポロサタデースクール事業は、学校と地域団体・企業等で構成する「運営協議会」にプログラムの企画・運営を年度ごとに委託します。地域の方にとっては「実行委員会」という方がイメージしやすいかもしれません。

プログラムは、運営協議会を構成する学校の児童・生徒を対象に行います。未就学児や地域住民も一緒に参加できるプログラムを実施することもできます。



運営協議会の役割

実施するプログラムの企画のほか、開催案内・参加者の募集、必要な物品の調達、講師の依頼・調整、当日のスタッフ確保や役割分担、会場設営などの事前準備、当日の進行、実施報告の作成・提出など、一連の作業を担います。運営協議会には、代表者のほかに、「コーディネーター」（複数人対応可、代表者との兼務も可）という役職を置き、一連の作業進行や連絡調整の核として活動します。

運営協議会の区分と運営費として支払う金額

運営協議会の区分ごとに、1プログラムあたりの単価を定め、年間の実施回数を乗じた金額を運営費として支払います。運営費の中から、コーディネーター謝金、講師謝金、案内文等の印刷費、プログラム実施に必要な物品の購入費などを支払います。

区分	条件	運営費（委託料）	
		単価	年間上限額
単独実施	運営協議会を構成する学校が1校の場合	30,000 円	300,000 円
連携実施	運営協議会を構成する学校が複数の場合	50,000 円	500,000 円

受領した運営費は、各プログラムで単価どおりに支出する必要はなく、プログラム間で弾力的に支出することができます。経費を抑えるものとお金をかけるものなど、メリハリをつけたプログラムの企画ができます。

例）A 学校と B 学校をメンバーに含む運営協議会で、年に 3 回のプログラム（①②③）を実施
 ⇒運営費総額 150,000 円
 プログラム別の支出 ①45,000 円 ②20,000 円 ③85,000 円

※事業の受託にあたっては、プログラムの企画条件や、運営費から支出できるもの・できないものがあります。
 詳細は、札幌市教育委員会生涯学習推進課（電話 211-3872）にお問合せください。